

知財創造教育推進コンソーシアム

検討委員会（第9回）

普及実践ワーキンググループ 活動報告

2021年3月30日

活動報告書の構成

- 1 知財創造教育を取り巻く現状と課題
 - 1.1 知財創造教育の目的・役割
 - 1.2 知財創造教育推進コンソーシアムの設置
 - 1.3 知財創造教育推進コンソーシアムを中心としたこれまでの取組と成果
 - 1.3.1 知財創造教育の体系化
 - 1.3.2 教育プログラム（教材）の収集・作成
 - 1.3.3 地域コンソーシアムの構築
- 2 知財創造教育の普及・実践に向けて
 - 2.1 普及実践ワーキンググループ
 - 2.2 本報告書の活用
- 3 アクションプラン
 - 3.1 知財創造教育を知る
 - 3.2 知財創造教育を実践する
 - 3.3 知財創造教育の実践を継続する
- 4 知財創造教育の普及・実践を推進する基盤の在り方
 - 4.1 地域コンソーシアムの構築
 - 4.2 地域コンソーシアムの主な役割・機能
 - 4.3 知財創造教育推進コンソーシアム

**本報告書の
メインパート**

関連資料

3 アクションプラン

普及・実践の段階別（3段階）に、知財創造教育の関係者が取り組むべき（取組が期待される）主要なアクションをとりまとめた。なお、ニュー・ノーマルはモードが不安定な時代であり、知財創造教育を取り巻く環境の変化に応じて、随時、アクションプランは見直されるべきものである。

①知財創造教育を知る

- 各種教育研究会や日本教育学会など、様々な場を活用した知財創造教育の発信
- 知財創造教育に関する情報を学校段階ごとに整理し発信
- 知財創造教育の効果の測定手法を検討し、効果を教育関係者と共有
- 知財創造教育に関するポータルサイトの立ち上げと情報を集約した発信
- 教員向けの講習・セミナーの開催に向けた取組
- 教育学部への「知財創造教育」、教養教育への「知財教育」の導入推進

②知財創造教育を実践する

- 教科書からの知的財産に関連する部分の抽出と、抽出結果の発信
- 実践事例の収集と公表。公開授業に関する情報発信
- 教員が参画するネットワークを通じた、知財創造教育の実践支援
- キャリア教育コーディネーターとの連携

③知財創造教育の実践を継続する

- 学校長への情報発信の強化。地域の学校の地域コンソーシアム参加推進
- 知財創造教育の推進拠点となる学校や教員の認定・公開

4 知財創造教育の普及・実践を推進する基盤の在り方

全国8地域の地域コンソーシアムについて3タイプに分類するとともに、地域コンソーシアムに求められる役割と機能を整理した。

また、来年度から、知財創造教育推進コンソーシアムは知財創造教育の普及・実践の司令塔となり、各地域コンソーシアムのハブとなるが、新体制の初年度は、地域コンソーシアムの活動状況を把握・分析しつつ、知財創造教育の普及・実践の観点から、知財創造教育推進コンソーシアムのあり方について検討することが必要である。

【地域コンソーシアムの分類】

①地域企業支援型（北海道・九州）

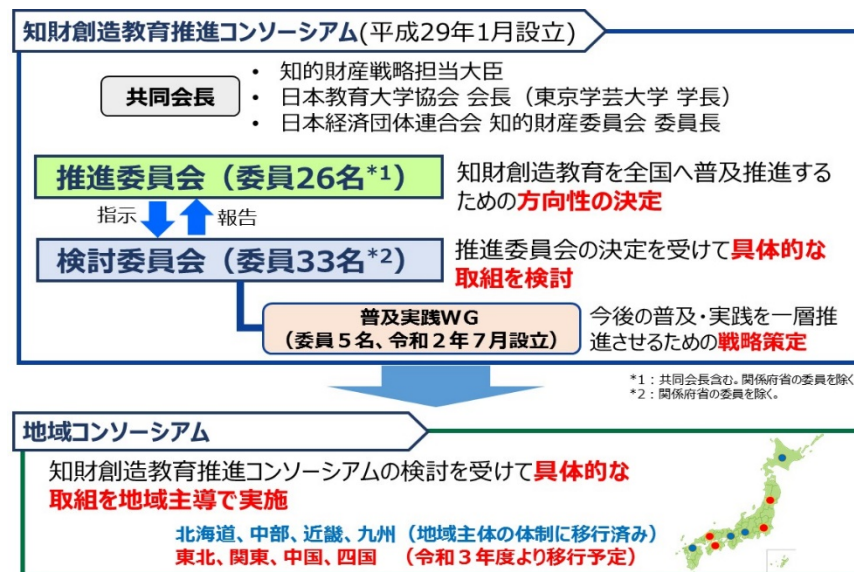
地域の企業や経済団体からの協賛金等を運営資金とし、協賛企業や経済団体が支援者となってコンソーシアムを運営する

②地域大学主導型（中国）

大学又は大学内の専門機関が事務局を担当し、メンバーや資金面を考慮しながら具体的な取組を決定し、持続的な活動を実現する

③地域ネットワーク型（東北・関東・中部・近畿・四国）

地域コンソーシアム構築に向けた検討メンバーがコアとなり、デジタル変革のメリットを生かしつつ、それぞれが役割を担いながら知財創造教育を推進



知財創造教育のガバナンス体制

以上